

## 令和7年度水稻作況情報（最終）

### ○耕種概要

- ・場所 和歌山県農業試験場内圃場（和歌山県紀の川市貴志川町高尾 160）
- ・供試品種 キヌヒカリ・きぬむすめ・ヒノヒカリ
- ・播種期 5月21日
- ・移植期 6月10日
- ・移植方法 機械移植 3本植
- ・栽植密度 20.8株/m<sup>2</sup> (16cm×30cm)
- ・施肥 (N・P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>・K<sub>2</sub>O kg/10a)  
基肥 4.8-7.2-5.6 追肥①（幼穂形成期頃） 2.4-0-2.4 追肥②（追肥①の10日後頃） 2.4-0-2.4

### ○気象

最高気温は、8月第2半旬頃に平年値を下回ったものの、概して5月第1半旬から9月第6半旬にかけて平年を上回った。特に6月第4半旬及び7月第2半旬頃は、平年値との差が大きかった。

降水量は、6月第2半旬から6月第3半旬にかけて平年より多く、特に7月第4半旬は顕著であった。その後、7月第5半旬から9月第1半旬にかけて平年より少なかったが、9月第2半旬は平年を大きく上回った。9月第3半旬から9月第6半旬にかけて平年を下回った。

日照時間は、平年より降水量の多かった5月第5半旬や6月第3半旬で平年を下回った。6月第4半旬から8月第1半旬は平年を上回ったが、8月第2半旬から8月第4半旬にかけては、降雨や曇天の影響で平年を下回った。8月第5半旬から9月第4半旬にかけては、概ね平年を上回ったが、9月第5半旬から9月第6半旬にかけては平年を下回った。

### ○生育概況

葉齢は、いずれの品種も平年より早く進展した。

草丈は、いずれの品種も移植後20日頃まで平年を上回っていたが、それ以降は平年並みとなった。

茎数は、いずれの品種も移植後20日以降は平年を上回った。特に、移植後30日時点では、いずれの品種も平年より150%以上多かった。

出穂期及び穂揃い期は、「キヌヒカリ」で平年より5日早く、「きぬむすめ」で平年より3日早かった。

「ヒノヒカリ」は平年より2日早かった。

成熟期は、「キヌヒカリ」及び「きぬむすめ」で3日早く、「ヒノヒカリ」で4日早かった。

稈長はいずれの品種も平年を上回ったが、穂長はいずれの品種も平年を下回った。

### ○収量及び品質

精玄米重は、いずれの品種も平年より多く、「キヌヒカリ」で123%、「きぬむすめ」で120%、「ヒノヒカリ」で114%だった。

穂数は、「キヌヒカリ」が平年より多く、「きぬむすめ」と「ヒノヒカリ」は平年並みであった。

一穂粒数は、「キヌヒカリ」が平年より少なく、「きぬむすめ」と「ヒノヒカリ」は平年並みであった。

玄米千粒重は、「キヌヒカリ」と「きぬむすめ」が平年並みで、「ヒノヒカリ」は平年より多かった。

登熟歩合は、いずれの品種も平年より高かった。

整粒率は、「キヌヒカリ」で51.1%（平年比86%）、「きぬむすめ」で61.3%（平年比89%）、「ヒノヒカリ」で58.1%（平年比88%）であった。

項目	調査日	移植後 日数	キヌヒカリ			ぎぬむすめ			ヒノヒカリ		
			本年	前年比	平年比	本年	前年比	平年比	本年	前年比	平年比
葉齢(葉)	6月10日	0日	3.1	0.1 葉	-0.1 葉	3.1	0.1 葉	0.0 葉	3.3	0.1 葉	0.0 葉
	6月20日	10日	5.5	0.1 葉	0.3 葉	5.5	0.1 葉	0.4 葉	5.9	0.4 葉	0.6 葉
	6月30日	20日	8.6	0.5 葉	0.5 葉	8.7	0.7 葉	0.7 葉	8.9	0.8 葉	0.8 葉
	7月10日	30日	10.7	0.4 葉	0.5 葉	11.1	0.8 葉	0.9 葉	11.1	0.9 葉	0.9 葉
	7月15日	35日	11.3	0.4 葉	0.3 葉	11.5	0.5 葉	0.5 葉	11.7	0.6 葉	0.6 葉
	7月20日	40日	11.6	0.5 葉	0.4 葉	12.2	0.7 葉	0.6 葉	12.4	0.8 葉	0.8 葉
	7月25日	45日	12.8	0.6 葉	0.5 葉	12.9	0.8 葉	0.7 葉	13.0	0.8 葉	0.8 葉
	7月30日	50日	13.2	-0.1 葉	0.1 葉	13.5	0.4 葉	0.5 葉	13.6	0.9 葉	0.8 葉
草丈(cm)	6月10日	0日	14.2	77 %	92 %	15.2	77 %	96 %	13.0	86 %	93 %
	6月20日	10日	25.8	99 %	102 %	25.3	98 %	106 %	21.3	104 %	102 %
	6月30日	20日	41.9	103 %	120 %	40.0	99 %	121 %	35.8	113 %	123 %
	7月10日	30日	63.4	100 %	101 %	58.8	96 %	101 %	52.4	101 %	104 %
	7月15日	35日	72.5	103 %	101 %	68.4	94 %	99 %	61.2	100 %	100 %
	7月20日	40日	78.0	97 %	100 %	73.3	90 %	98 %	66.6	96 %	98 %
	7月25日	45日	84.3	100 %	102 %	78.2	92 %	99 %	72.4	96 %	99 %
	7月30日	50日	90.0	100 %	102 %	82.6	94 %	98 %	77.7	101 %	101 %
莖数(本/m <sup>2</sup> )	6月20日	10日	75.3	87 %	118 %	63.5	81 %	99 %	82.3	107 %	128 %
	6月30日	20日	294.1	133 %	143 %	271.2	123 %	134 %	311.5	143 %	148 %
	7月10日	30日	311.3	142 %	164 %	530.6	129 %	152 %	544.8	127 %	150 %
	7月15日	35日	466.3	123 %	143 %	462.5	108 %	123 %	485.1	103 %	121 %
	7月20日	40日	480.9	130 %	147 %	485.8	116 %	128 %	519.1	114 %	130 %
	7月25日	45日	446.9	126 %	137 %	425.4	107 %	115 %	463.9	106 %	118 %
	7月30日	50日	460.1	142 %	145 %	449.3	125 %	126 %	446.9	117 %	120 %
	乾物重(mg/本)	6月10日	14.6	90 %	68 %	14.6	86 %	72 %	13.0	83 %	65 %
幼穂形成期(月日)		7月16日	0 日	-1 日	7月26日	1 日	1 日	7月30日	1 日	0 日	
出穂期(月日)		8月2日	-3 日	-5 日	8月14日	-1 日	-3 日	8月19日	-1 日	-2 日	
穂揃い期(月日)		8月4日	-3 日	-5 日	8月16日	-1 日	-3 日	8月21日	-2 日	-3 日	
成熟期(月日)		9月8日	2 日	-3 日	9月20日	0 日	-3 日	9月27日	0 日	-4 日	
主穂止葉葉位(葉)		13.5 葉	0.2 葉	-0.1 葉	14.9 葉	0.4 葉	0.3 葉	15.5 葉	0.5 葉	0.6 葉	
稈長(cm)		87.4 cm	106 %	102 %	89.7 cm	105 %	102 %	87.4 cm	108 %	104 %	
穂長(cm)		18.6 cm	98 %	97 %	18.6 cm	93 %	96 %	19.9 cm	98 %	99 %	

#### 収量及び収量構成要素

項目		キヌヒカリ	ぎぬむすめ	ヒノヒカリ
穂数 (本/m <sup>2</sup> )	本年値	378.1	319.1	312.2
	平年比 (%)	119	100	97
一穂穂数 (粒/穂)	本年値	85.4	102.0	84.5
	平年比 (%)	93	102	99
玄米千粒重 (g)	本年値	23.3	22.7	24.2
	平年比 (%)	104	103	109
登熟歩合 (%)	本年値	85.8	93.2	92.7
	平年比 (%)	106	113	109
精玄米重 (kg/10a)	本年値	645.7	687.4	591.4
	平年比 (%)	123	120	114

注) 篩い目は1.8mm

平年比は、過去7年間のデータから、最小値と最大値を除いて平均した数値との比較

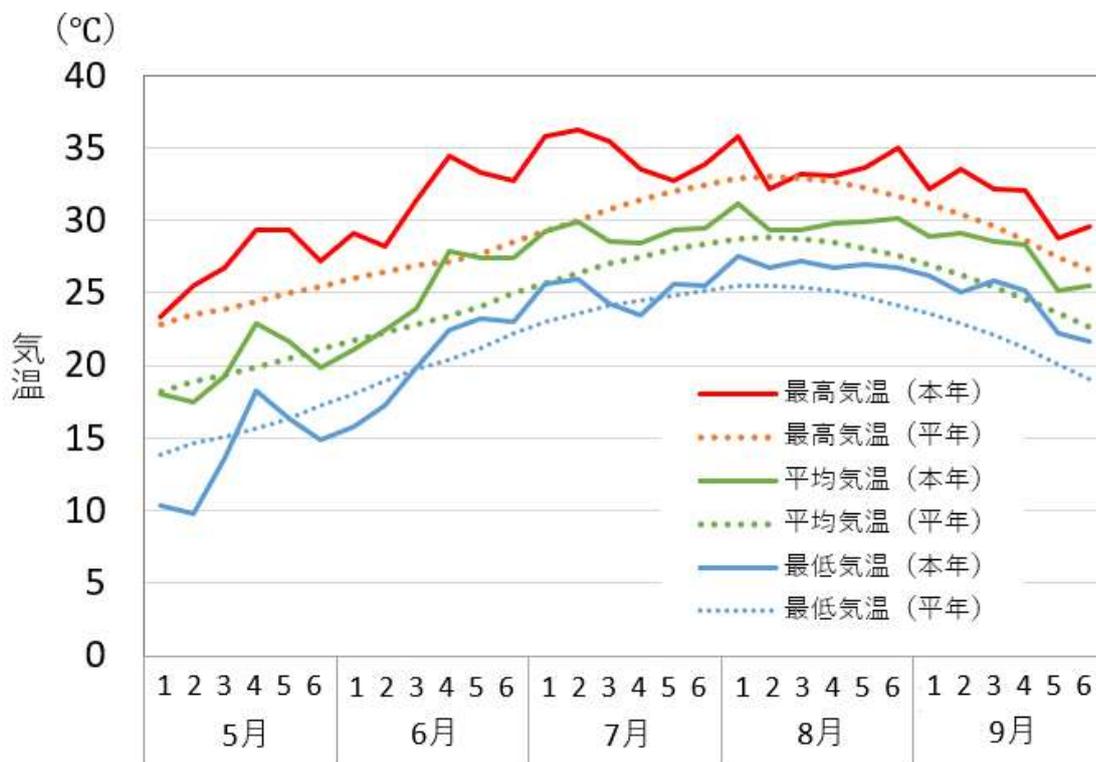
玄米千粒重、精玄米重は、玄米水分15%換算値

#### 玄米品質

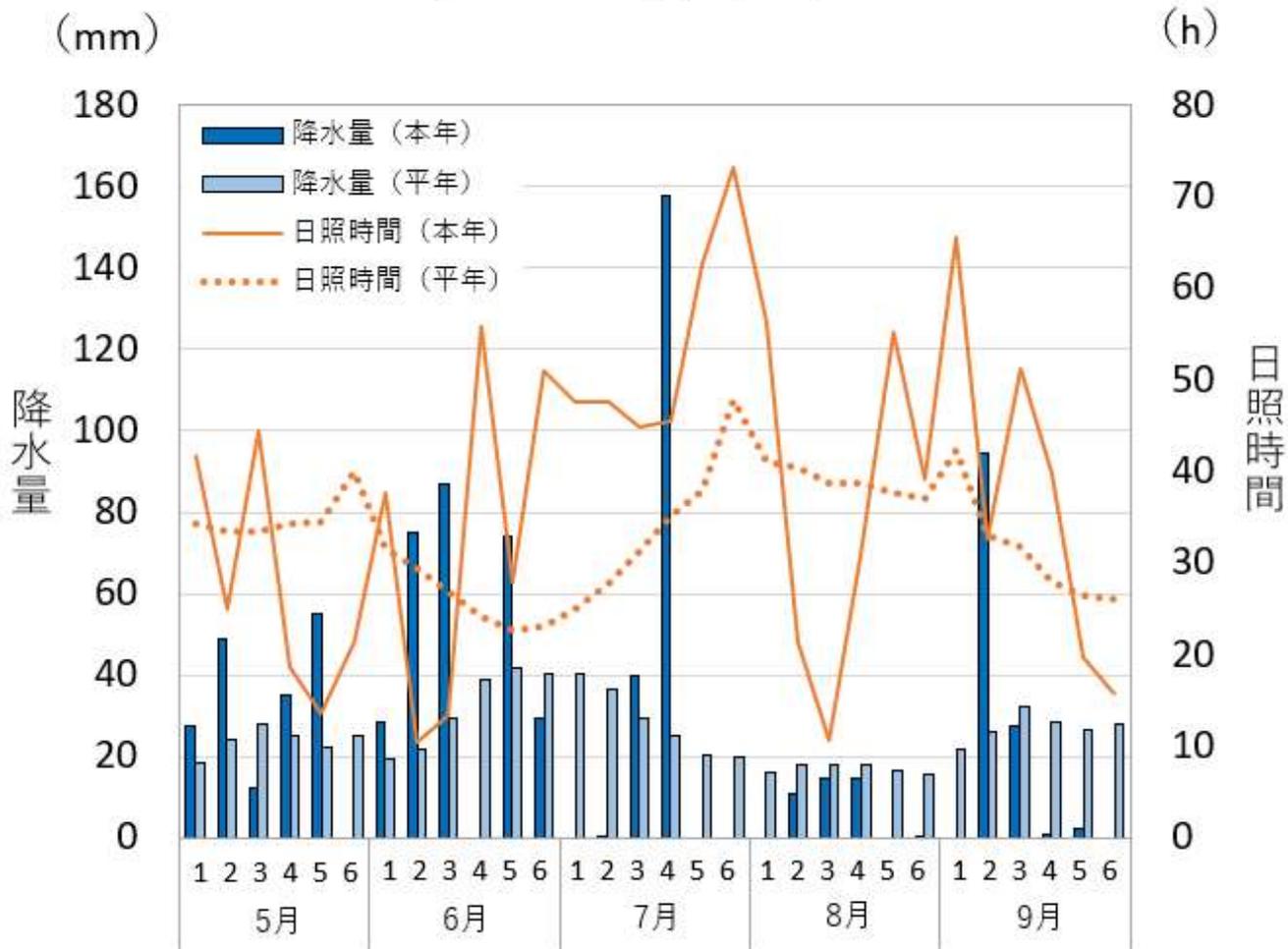
項目		キヌヒカリ	ぎぬむすめ	ヒノヒカリ
整粒 (%)	本年値	51.1	61.3	58.1
	平年比 (%)	86	89	88
未熟粒 (%)	本年値	44.8	35.9	35.9
被害粒 (%)	本年値	3.1	1.4	4.7
死米 (%)	本年値	0.7	1.1	0.6
着色粒 (%)	本年値	0.4	0.3	0.8

注) 数値は穀粒判別器(静岡製機ES-1000)で測定したもの

平年比は上表と同様



半旬別気温の推移 (2025)



半旬別降水量・日照時間の推移 (2025)

注) 気象庁の気象データをもとに作成  
測定地点は「和歌山」